



モロナイとじゅうのはた

だい32しょう



あくにんのアメリカは、ニーファイ人の王になりたがって
ました。多くのニーファイ人がアメリカにしたがって、
教会をさりました。(アルマ46：1，4-5，7)



もしアメリカが王になったら、きっと神の教会をほろぼし、人
びとのじゅうをうばってしまうでしょう。(アルマ46：9-10)



ニーファイぐんのしれいかんモロナイは、アメリカの王になる
というたくらみを聞いておこりました。(アルマ46：11)



それで自分のうわぎを引きさいて、はたを作りました。そのはた
の上に、ことばを書いて、人びとが自分たちのしゅうきょうやじゅう、
へいわをまもることを思いおこせるようにしました。(アルマ
46：12)



モロナイはそれをぼうの先につけて、じゅうのはたとよびました。
それからはたを手にもち、よろいをきて、ひざまずきのりました。
(アルマ46：13)



「イエス・キリストをしんじる人たちと、この地のじゆうをまもってください。」そして、その地を「じゆうの地」と名づけました。(アルマ46：16-18)



こうしてモロナイは、人びとのところに行き、じゆうのはたをふって、じゆうをまもるために出て来るよう、よびかけました。(アルマ46：19-20)



すると国中から人があつまって来て、神のいましめをまもり、じゆうのためにたたかうことをやくそくしました。(アルマ46：21-22, 28)



アマリキヤは、たくさんのニーファイ人がじゆうをまもるためにあつまつたのを見て、おそろしくなりました。そこで、自分について来る人びとをつれて、レーマン人のところへにげて行きました。(アルマ46：29-30)



モロナイはその行く手をはばもうと、ぐんをひきいて行きましたが、アマリキヤは、わずかの手下をつれてにげてしまいました。(アルマ46：31-33)



モロナイは、ニーファイ人の地にあるすべてのとうに、じゆうのはたを立てました。こうしてニーファイ人のじゆうはまもられ、へいわがもどりました。(アルマ46：36-37)